



歓迎晩餐会

みしまプラザホテル



参議院議員たち



参議院のシャトーに参議院



参議院議員と市長との懇話会



参議院議員 中野カネ子氏



参議院議員
松下貴子氏
(三原市)



参議院議員の参議院



参議院議員 長谷川裕子氏



参議院議員
松下貴子氏
(三原市)



参議院議員 長谷川裕子氏



参議院議員 長谷川裕子氏



PR部理事の歓迎ご挨拶



来山記念堂学会 会長理事のご挨拶



楽しく宴会をたのびます



ラタクル会員に記念品の贈呈



会員本人の弟社副社長へ伊豆美園PC 西島会長より寄付金贈呈



日本舞踊 蘭舞 美奈子(三浦PC)



感謝状を内閣府理事長のご挨拶



小池三島事務所のご挨拶



手に手のお祝い



大仁ホテル～箱根

JR三島駅にてお見送り(11月28日)



中村記念館理事長



箱根大仁ホテルで

内閣理事長



理事長、秘書夫人、スベントンの秘書、秘書団長(大仁ホテル)



箱根ハイライオンズクラブ(富士登山センターで引体向上)



箱根内閣理事長夫妻と(箱根湖)



箱根湖の舟ノ浦で



富士山新幹線に降参十四団



東京から箱根でお見送り
二萬邸でお見送り

心に残る歴史的な一日 ピチャイ・ラタクルRI会長 米山梅吉記念館訪問

(財)米山梅吉記念館 理事長 内藤 成雄

轟々と音を立てて流れて行く時の一瞬のハイライトを捉って歴史がつくられていく。そんな思いを身近なものとしてわが26200地区と米山梅吉記念館は2002年11月27日、東の間の半日を貴重な輝かしい時として過ごした。ピチャイ・ラタクルRI会長の地区及び記念館への公式訪問であった。

1年も前から準備され、熱意ある歓迎実行委員会の皆さんによってそのまま遂行すれば成功疑いなしのシナリオが出来上っていた。当日は各部署に付いたスタッフは緊張しながらも余裕満々の面持で待機していた。12時26分、三島駅に新幹線「ひかり」がすべり込んだ。ピチャイ・ラタクルRI会長、板橋RI理事夫妻らが降り立った。われわれはホームを走った。黒顔のピチャイ・ラタクルRI会長が先ず中野ガバナールを抱擁した。続いて出迎えスタッフ全員と。

賓客を迎える主役は富士山であった。白雪の富士はホーム北側に輝いていた。ピチャイ・ラタクルRI会長は白らस्ताップと声をくんで富士を背に写真撮影を繰り返した。きつと緊張していた空気が緩和していくのを感じた。会長を館まで案内する車はブライズホテル提供のクラシックカー、箱型黒のオースチン。われわれはバスで随行した。

米山記念館に着いた。地区内外から集まったロータリアンが館庭からロビーまで、ところ狭しと待立して会長を迎えた。拍手の高、会長は両手を合わせ、鞠躬と進む。握手、抱擁。島津米山記念英学会理事長、板橋RI理事夫妻、田中同エレクト、米山むつき米山山三氏夫人、地区内外のノスタルガバナー、この日のために大挙米日のタイ国トンプリRC会員30名以上、そして地元のロータリアンら参加者すべてが歓迎の心一つに駆けあつた。歓迎セレモニーは簡素であつたが素晴らしい一時であつた。タイ国、日本国旗の間にこの日初めてピチャイ・ラタクルRI会長によって許可されたロータリー旗章を配した記念館旗が配された。

ピチャイ・ラタクルRI会長は開口一番、80年も前に日本、アジアにロータリーの慈愛の種を播かれた米山梅吉先生を讃えて流れて行く時の一瞬のハイライトを捉って歴史がつくられていく。そんな思いを身近なものとしてわが26200地区と米山梅吉記念館は2002年11月27日、東の間の半日を貴重な輝かしい時として過ごした。ピチャイ・ラタクルRI会長の地区及び記念館への公式訪問であった。

生を讃えた。そして念願の米山記念館を訪問出来た喜びを満面笑みを湛えて語り歓迎の謝辞を述べた。

感動の流れるは二階の展示室に登った。長旅の疲れも見せず会長は温顔である。前もって米山先生を講べてあるのか質問も核心をつく。会話は英語であるが漢字もお腹みになるらしい。通訳は日大梅本女史、加藤精一君、坂本前理事長と合線と控えていたがあまり出番がない程進んだ。

この館の展示は第三室が円本ロータリー史50年史となつている。会長はそこで更に歩みを止めた。果ては椅子を持ってきて坐りこんだ。知っている顔を見付け出したのである。予定の時間は10分ほど超過していた。

次はこの日のために準備した棟明と記念碑除幕である。館裏庭は準備を整えて会長を待っていた。更にこの庭には地元長泉小学校の子供たちが待ちかまえていた。

子供たちはその日校外授業の一環として記念館清掃に奉仕していたのだが、この好機に居あわせたためピチャイさんを一目見ようと待ちかねていた。靴の履音が冷たく吹抜けていた。展示場で時間を過ごしていた会長に、係が庭で子供たちが待っている、と告げた。

会長の顔が一瞬輝いたように見えた。そして急に足早になり庭園に向かった。

信じられないことが起こった。両手を広げて歩く会長に、子供たちが一斉に叫び声を上げて駆け寄り会長に抱きついた。子供たちに囲まれて会長の上半身が浮き上がった。

ともすればこのような時には雰囲気は呑まれて尻こみするのが日本の子供だが、会長の自らの笑みと魅力が子供たちを惹きつけたのだ。誰かが「理事長、中々よい演出ですね」と言った。

「面白い演出ですね。おのずからこうなつたんだよ」と僕が叫んでいた。

庭園の木は金木犀であった。われわれはこの木を「慈愛」と命名した。会長の年度テーマ「Sow the Seeds of Love」からとつたものである。碑の前面にもこの年度テーマ

ピチャイ・ラタクルR.I.会長を迎えて

(明) 米山梅吉記念館 司 坂 本 豊 美

平成14年11月27日、ピチャイ・ラタクルR.I.会長の米山記念館訪問は、記念館創立以来の慶事であったと思います。ピチャイ・ラタクル会長は終始笑顔で、関係者と丁寧な挨拶を交わされたから、館内を一周、植樹、東レ講堂におけるロータリー会員に対する記念講演とハードなスケジュールをこなされたのであります。

講演が終ったから、少し時間の余裕があったとき、再び記念館に戻られ、展示の内容についてごまかい質問をされたり、同期の日本のガバナーの消息を訪ねられたりしました。ごまかい御配慮に感謝したのであります。

R.I.会長の記念館訪問は、米山記念館の存在を示す貴重な事件であったと思います。今後、米山奨学生はもとより、ロータリー財団奨学生や多くのロータリー会員の来館を期待するものであります。同時に

記念館当事者も更なる記念館の充実と、創立の精神にかんがう運営をしなければならぬと思います。

今回の来訪は伊豆長岡RCと、トンブリRCとの長年の姉妹提携の縁によるもので、トンブリRC会員のピチャイさんの衆I.会長就任の結果生れたのであります。色々のいささつがあって当初の計画ではどのような形になるのか心配されたのであります。幸いガバナー、記念館理事長及び運営委員の各位の大きな御努力によって成功裡に終ったのであります。上ない喜びであります。

またRI会長と共に、トンブリRCの会員夫妻が多数来館されたことも有難かったと思います。

改めて関係の方々の新労苦に御礼申し上げます。

ピチャイ・ラタクル会長の慈愛のメッセージ

(明) 米山梅吉記念館 常務理事 伊 藤 文 平

昨年4月26日にはじめてお会いした時以来、あんなに温かい言葉を浴び、歓迎の準備のお手伝いをして参りました。今回再びお会いして、その暖かい思い、強い慈愛の光に感動したのは私だけではないと思います。

会長の就任以来毎号の「ロータリーの友」に載っているメッセージを読みますと、肥大化したロータリーのプロジェク、プログラムをこれ以上増やしたくない。地域社会にとって何が大切なかを理解している立場にいるロータリアンの力を集めて、ポトムアップで活動することを強く訴えています。講演の中でもポリオ撲滅をはじめとし、既にあるプログラムの着実に実行しようということ。

さらに百年前にポール・ハリスが説いたロータリーの基本的な理念に立ち返って考えようということ。

ピチャイ・ラタクルRI会長の米山梅吉記念館訪問も、この「基本に立ち返って考えよう」という彼のメッセージの実践に他ならないと感じました。

RIや地区ガバナーから与えられたプログラムや目標だけでなく、各自の考え、発想を大事にしてクラブのプログラムを作っていくということは、100周年を越えたロータリーにとって、大変だが大事なことだと思います。

別のテーマになりますが、今回の訪問に先立ってピチャイ・ラタクル会長が米山梅吉のものを英文でもと読みたいという希望が出ましたが、ロータリー文庫の事務局の努力で「1928年10月のロータリー太平洋地域大会」の英文が見つかり、他の資料と共に送りました。米山さんは当時すべて英文でRIに報告していたと考えられますので更に英文での資料の発見が喜ばれます。

京クラブの御厚意で米山記念館庭園に株分けし、植えていただいたのが、今回のピチャイ・ラタクル会長植樹の金木君と共に将来長く来館者にロータリーの心を伝えていくことであらう。

歓迎晩餐会は三善プラザホテルで行われた。会場が200名定員なので、希望者全員の御招待に沿えなかつたことが残念であった。この会での会長はすっかりつらいでおられた。

ホテル入口で先ず会長を迎えたのは、川原が谷しやざり会社中の皆さん、しやざりというのともともと能狂言の囃子事だが、各幕の終りに演ずる拍子木、笛、太鼓、鉦で演ずるテンゴの早い、賑やかな曲である。会長は演奏社中の中へ入っていった。宴会前の演奏は草間路代(琴)宮崎晋蔵(尺八)の清らかな歌入りの琴、尺八演奏、唱われたのは三善の歌人大岡 博(大岡 信氏岳父)の「羨の香に流わすて大さき月ゆかりゆかりと遊ぶがごとし」であった。

板橋理事、島津米山記念奨学会理事長の祝辞、会長の挨拶は慈愛に満ちたものであった。

菓半ばのアトラクションは日本語「華娘」この豪華な舞台は三島RCの最 風艶が演じた。

この会は米山中のタイ国トンブリRCの皆さんも加わり国際色(アジア色)もあり、心癒やされたことにも後のこのことであった。

会長御夫妻にはプレゼントとして甲州印伝のバックを差上げた。夫人は体調すぐれぬため来日されなかつたことは残念であった。華かが「記念館、金があるんだなあ」と冷やかしたが、地区から多くの助成金を預けたことの結果であった。

菓果でんとし、私はこの歴史的な素晴らしい一日を与えてくれたピチャイ・ラタクル会長に感謝し、参加の皆さんと準備のために心魂かたむけた皆さんにお礼を申し上げた。

会長の宿泊は大仁ホテル、それ以後の担当は伊豆長岡RCの皆さんにお願いした。

翌28日は会長は箱根遊覧を楽しみました。富士はこの日も雪をたたき、崇高な姿で会長を迎えた。バスに同乗したわかれは終日笑顔のピチャイ・ラタクル会長の人格にひたたり魅了されてこの至福の日を過ごした。

同日午後4時20分、次会場大坂のソノーン研究会に向う会長をお送りした。車窓で手を振るピチャイ・ラタクルさんの笑顔が今も目にやきついていく。

マとピチャイ・ラタクル会長のサインと日付を彫り込んだ。会長の円滑な容顔はあたりを照らしていた。

「僕が彫ったから又ここに来ますよ。それにしてもこの時にどうしてロータリーのエンブレムを彫り込まないのですか?」会長の言葉はわれわれにとって限らない動機に聞こえた。

館内には伊豆長岡RCの皆さんの努力で「ピチャイ・ラタクルRI会長紹介展」が催されていた。35歳で地区ガバナーをやったロータリーライフ、タイ国政界に身を投じた副首相にまで栄達した政治活動、数々のアワード、勲章等が主として写真パネルによって展示されていた。会長は感涙げだったが比較的に早く通り過ぎ、館に近しい米山家郷地に自ら歩き、傳教使らしい敬虔な祈りを捧げた。ピチャイ・ラタクル講演会は会場を東レ研修センターに移して行われた。参加者、地区内各クラブから合せて定員600名以上がホールを埋めつくしていた。

講堂起立拍手して迎えた中に温顔の会長のスピーチはよどみなく続いた。ガバナー経験者ならともかく一般のロータリアンは直にRI会長に会え、スピーチを聞く機会はそうあるものではない。皆その貴重な千載一遇のひと時に因縁を呑んだ。

講演要旨は本誌別掲の通りなので重複を避けた。講演は予定より約20分早く終わった。お疲れかなと気づいたわかれわれに、控室に展った会長は驚くべきことを言われた。「もう一遍米山記念館に行こう」と。

会長のこの瞬間的約はこの思いがあったことと拝察された。はっきり言って大変なことになった、と思った。館は行事を終えて看板外式典のため準備したものは既に撤去されている筈である。しかしそのようなことに一切こだわらない会長の姿勢に感動した。「会長再び記念館に戻る」というドラマは将来記念館のこの日を語る時の大きな語り草となることであらう。…と思った。

再び記念館に戻った会長は実に楽しそうに次の歓迎晩餐会までの時間をたっぷり館内で過ごした。

時は隔ってはいないが、われわれにはこの時米山梅吉とピチャイ・ラタクルというロータリー史上の偉大な指導者が寄りあった時期ではなかつたか、と思われた。

ポール・ハリスと米山梅吉という偉大な二人は生年を同じだったが生年一度出合いがあった記録がある。1935年の第5回太平洋地域大会(マニラ)の帰途、帝國ホテル(東京)で記念植樹(月桂樹)、東京会館の歓迎会での1回だけである。この時の月桂樹はその後東

第2620地区 地区幹事 山本孝美

「風華から胸」とでも申しましょうか、結果は現職のRI会長が米山梅吉記念館に公式訪問の為、2002年11月27-28日に超過管スケジュールの中を来日された事は誠にご案内のとおりであります。

話の発端はともかく「RI会長歓迎」を遂中から地区でもお手伝いする事になりましたが、内藤理事長以下、関係各位の皆様のご尽力により最高のおもてなしが出来た事はこの上ない喜びと感じております。

さて今回はビチャイ・ラタクルRI会長の大変気さくなお人柄の一面をご紹介させて頂きました。

公式訪問翌日の「伊豆箱根観光ツアー」に同行させて頂いたいただいた時の模様を少しだけ披露いたします。

その日は早朝よりまさに日本晴れ！連日のハードスケジュールにもかかわらず元氣なお姿で車上の人へ、狩野川の「逆さ富士」を皮切りにコースのどこからでもピカピカの最高富士山を見る事が出来て大変ご満悦でした。

昼食時には我々と同じボリュウムのメニュー（かなり量ありませぬ）。

同じ東洋人と云いますか、何かキンピカのエンターテイナーとは違い数倍の親しみを感ずる事は事実です。

新幹線ホームでの御見送りの際「来年4月にまた逢おうぜ」と。

さらに今団体調不良のため残念ながら米日を断念された奥様の事を大変気遣っておられました。1年のうちで御自宅に滞在されるのは延べ10日間位とか……無理もありません。

御身惜みせず奉仕する人材の確保である。

総務伊藤常務と精進の小世君、印刷部門を短期間に見事に成し遂げた木内君、植樹記念碑を破格値で立派に完成させた長岡R・Cの山口君などいちいち述べだしたら切りがないほど数々の準備陣であった。

一同が我を忘れて燃えた。

当日になった。

歓迎の主役は富士山といっても良い程白磁の姿が秋空に染まっていた。

ビチャイ・ラタクルRI会長は終始笑みを湛えて、時には熱心の余り時間を超過することもあったが、すべて準備された通りのスケジュールでこの施設まで以来の世紀の行事は終了した。

大成功であったと評を頂いた。

そしてロータリーの力の偉大さ、皆でそれぞれ役割を分担した結果の力強さを感じた。

地区と館との橋渡し役が私の主な仕事であったが献身奉仕を頂いたすべての皆さんに感謝の気持ち一杯である。

何や誰列のないプログラムである。

会場もメインの記念館、講演の東レ研修センター、歓迎のプラザホテルと分散、しかもRI会長自身のホームクラブ、タイランド・R・Cからの大勢のゲスト、この姉妹クラブ伊豆長岡R・Cとの混成委員会である。

こういう時には、先ず絶対成功させるという信念と

米山梅吉記念館委員会 地区副委員長 三枝徳造

RI会長の米山梅吉記念館公式訪問記念事業として、記念館ホール前庭に記念植樹として「金木犀」を植樹することの諸準備も整い、主役の出番を待つばかりとなっていた。

そこに、記念館の清掃活動を10年余り続けている地元長泉小学校の子供たち30数名が担任の先生に引率され、清掃作業にやってきました。

このような奉仕活動が行われるようになったのは、梅吉翁が学んだ母校の子供たちに梅吉翁の「奉仕の心」を伝え、実践してもらえればと長泉ロータリークラブの呼びかけに、長泉町内の小中学校の全校が賛同し、1993年4月28日（翁の命日）を第一回とし、以来、毎年4月28日を「米山梅吉デー」と定め、「梅吉デーの集い」あるいは、町内の公共施設、道路、カーブミラー等の清掃などの社会奉仕活動のほか、保育園・幼稚園・知障老人宅訪問など福祉活動を行っている。

特に小学校では、毎月、社会奉仕活動や福祉活動を校外体験授業として取り組んでいる。長泉小学校では、毎月クラスごとの輪番で記念館の清掃作業を行っている。

RI会長が記念館公式訪問当日、記念館の清掃作業

「こうした寺の和尚は頭ははならないね、体力さえあれば」とアオオになった私はしみじみ自嘲する。除夜から初詣、そして大祭と、徹夜を含む祈禱の連続となる特別な寺では体力がなければ続かない。

加えて最近の私は、バレルセロナの国際大会参加しても時差がケの回復に2週間もかかるようになった。外国をたびたび回っていたかつての私には、こんなことはなかったのに。

こうした私の体験に衝撃を与えたのはRI会長の米山梅吉記念館への来訪。十何時間かけてとんで来

業にやっ来て来た子供たちは、記念館で行事があるの

で清掃作業を早めに切り上げ、引き上げようとしていた。

記念館での歓迎行事を担当していた長泉ロータリークラブの会員が、引率の先生に国際ロータリーの会長が記念館に

来ていて、これから記念事業として、これから記念植樹が行われることを話し、子供たちを参加させてはどうかと声をかけたところ、快く応じた。

子供たちは植樹祭の会場で主役の出番を待った。当日は四風が強く、寒い日であり、子供たちは寒さに耐えじっと待っていた。RI会長が会場に姿を見せると、30数名の子供たちは、歓声をあげ、先を競ってRI会長を取り囲み、抱きついたり、体に触れるなどして大いに嬉しかった。

数日後、記念写真を持って、長泉小学校に向向いたところ、学校長から「子供たちにすばらしい体験の機会を与えてくれたことに感謝するとともに、これからも華社の心を育てるよう指導していきたい。」とのご挨拶があった。

「こうした寺の和尚は頭ははならないね、体力さえあれば」とアオオになった私はしみじみ自嘲する。除夜から初詣、そして大祭と、徹夜を含む祈禱の連続となる特別な寺では体力がなければ続かない。

加えて最近の私は、バレルセロナの国際大会参加しても時差がケの回復に2週間もかかるようになった。外国をたびたび回っていたかつての私には、こんなことはなかったのに。

こうした私の体験に衝撃を与えたのはRI会長の米山梅吉記念館への来訪。十何時間かけてとんで来

業にやっ来て来た子供たちは、記念館で行事があるの

で清掃作業を早めに切り上げ、引き上げようとしていた。

記念館での歓迎行事を担当していた長泉ロータリークラブの会員が、引率の先生に国際ロータリーの会長が記念館に

来ていて、これから記念事業として、これから記念植樹が行われることを話し、子供たちを参加させてはどうかと声をかけたところ、快く応じた。

子供たちは植樹祭の会場で主役の出番を待った。当日は四風が強く、寒い日であり、子供たちは寒さに耐えじっと待っていた。RI会長が会場に姿を見せると、30数名の子供たちは、歓声をあげ、先を競ってRI会長を取り囲み、抱きついたり、体に触れるなどして大いに嬉しかった。

数日後、記念写真を持って、長泉小学校に向向いたところ、学校長から「子供たちにすばらしい体験の機会を与えてくれたことに感謝するとともに、これからも華社の心を育てるよう指導していきたい。」とのご挨拶があった。

超人来る

(財)米山梅吉記念館 理事 バストガバナー 高橋秀昭

「こうした寺の和尚は頭ははならないね、体力さえあれば」とアオオになった私はしみじみ自嘲する。除夜から初詣、そして大祭と、徹夜を含む祈禱の連続となる特別な寺では体力がなければ続かない。

加えて最近の私は、バレルセロナの国際大会参加しても時差がケの回復に2週間もかかるようになった。外国をたびたび回っていたかつての私には、こんなことはなかったのに。

こうした私の体験に衝撃を与えたのはRI会長の米山梅吉記念館への来訪。十何時間かけてとんで来

業にやっ来て来た子供たちは、記念館で行事があるの

で清掃作業を早めに切り上げ、引き上げようとしていた。

記念館での歓迎行事を担当していた長泉ロータリークラブの会員が、引率の先生に国際ロータリーの会長が記念館に

来ていて、これから記念事業として、これから記念植樹が行われることを話し、子供たちを参加させてはどうかと声をかけたところ、快く応じた。

子供たちは植樹祭の会場で主役の出番を待った。当日は四風が強く、寒い日であり、子供たちは寒さに耐えじっと待っていた。RI会長が会場に姿を見せると、30数名の子供たちは、歓声をあげ、先を競ってRI会長を取り囲み、抱きついたり、体に触れるなどして大いに嬉しかった。

静岡県2分區 カバー補佐 仲田 伊左夫

ピチャイ・ラタクル会長は11月27日正午に三島の地を踏まれました。第1会場である米山梅吉記念館にて歓迎セレモニーに臨まれた後、館内を参観して米山翁の遺徳を思われ、ついで記念植樹、懇談とあわただしいプログラムの中、会員との記念撮影にも心よく応じて頂戴しました。ついで第2会場に移られ、講堂の会員を前に1時開会に及び、「慈愛の種を播きましよう」と謙虚な態度で優しく語りかけて下さいました。そして、今第3会場の歓迎晩餐会に臨まれた所でございます。

さてこれ等のイベントは当地区にとりましては、地区始まって以来の歴史的な出来事であり、今回の公式訪問はかねてよりピチャイ・ラタクル会長が米山梅吉翁を「アジアにおけるロータリーの父」と思慕されていた事から実現したとも聞き及んでおります。

この日のために地区では歓迎委員会を立ち上げ、中野委員長、内藤副委員長を中心に受け入れ準備に追われて本日を迎えました。その間、地区4000余名の会員にこの喜びを分かちたくご協力をお願いし、年々、三島

地区にはピチャイ・ラタクル会長にお答えするだけの施設がなくて、現に各会場とも参加者の制限を余儀なくされました。そのため多数の会員の要望にお答えできないばかりか、二度とない機会を積み取る結果となりました。かえすがえす申し訳なく思っています。今夜のピチャイ・ラタクル会長を囲んでの歓迎晩餐会には、飯前RI理事、前川ガバナー会議長、島津米山奨学会理事長様もご臨席賜り、日本酒醸造部中でおもてなしました。

ピチャイ・ラタクル会長には、この後伊豆に移られて三島の1夜をくつろいでいただく予定です。ホテルからは重峰富士山が、頭に雪を冠った富士の姿は外国からのお客様には最高のお土産になるのではないのでしょうか。天も我々に見方してくれる事を祈っています。

付記楽しみにされて頂いた重峰富士が姿を隠した時は、その時のために写真「四季の富士」を贈呈いたしました。しかしこれは記念でした。明けて28日は快晴、箱根からの富士は素晴らしいの一語でした。

RI会長公式訪問に際して

伊豆長岡RC 会長 西島 嘉道

私達伊豆長岡クラブ数名は中野ガバナー、内藤理事長、RI叔僚理事各ご夫妻と共に、近藤、箱根等の観光後三島駅までの会長ご案内グループに入りました。

我々は終止会長の気の向くままにのんびりとくつろいで頂く事を最優先に心掛け、それでも、新幹線の時間は決まっていますのでこれに運れるわけにはいきません。会長には時間を気にしている等のことを感じさせない様、時計を見ている等の視線を避けながら互いに時間と距離を計算しながらの随行でした。

会長は終止、乗り、ゆとりと、にこやかに会談され、大変親しみをもって接して下さいました。私達も一日行動を共にさせて頂き、会長の自然に身体の中から発散する、その人柄の温かさ、大きさ、心の豊かさを感じる事が出来、大変幸せな一日を過ごす事ができました。

近藤クラブメンバー諸氏、また伊豆長岡クラブのメンバーの多大な御協力により成功裏に終わった事に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

①ラタクル閣下は、来年、日本を含めアジアの代表として、RIの会長になられます。

②記念館は、Rの先達を偲ぶと同時に、Rの理想を賛賞する場です。各地から大勢の人々が来館します。そこで会長のお人柄や理念をご紹介することに意義があります。

③米山記念奨学制度もアジア重視で、アジアの在日留学生に奨学金を支給しています。

④記念館は、2620地区の静岡第2分區の長泉に在り、タイ国の3350地区とは多くの共同事業を通じて親しい関係になっております。特に分區内の伊豆長岡RCは会長のホームのドンブワRCと20年近く交流を続けている緊密な姉妹クラブです。この地域は、会長に近親感を持ち、また、期待している方々が、極めて多いのです。

この結果会長エレクトも名分が立つ展示なら、承諾してくれました。

ご来訪の話は、展示の届と並行して、お伺いし

ラタクル会長のご来訪を了えて

伊豆長岡RC 会長エレクト 早船 進

偉い人をお招きして、総ての行事を無事に終了させることは、全く、大変なことです。折衝や準備の苦労もさることながら、先ず、ご来訪の結果が好評でなくてはなりません。ご招客が、「来て良かった。」と満足し、当方も、「お迎えして良かった。」と実感し、第三者も、「成り果てた。」と言っておられれば、最高ですが、大変な神経を使います。もし、結果が悪ければ、当然、当方の面目が潰れ、ご招客の名誉さえ汚してしまいます。総てのご厚意もご尽力も水泡に帰し、感謝を言っても後の祭です。誠に、難儀なことです。

昨年の11月に、ラタクル会長と随行団のご一行を当地にお招き致しましたが、この発端は、会長のご紹介展を米山記念館で開催しては?という発想で、当時エレクトであった会長の意向を打診させて頂いたことに始まりました。

会長は、開口一番「なぜ私の展示会を米山で?」と当惑に導かれました。日本のRを愛した米山翁の偉業を偲ぶ記念館で、なぜ私の展示を?という疑問でした。なんとか、ご納得頂きたいという一心で、次のようにご説明しました。

①ラタクル閣下は、来年、日本を含めアジアの代表として、RIの会長になられます。

②記念館は、Rの先達を偲ぶと同時に、Rの理想を賛賞する場です。各地から大勢の人々が来館します。そこで会長のお人柄や理念をご紹介することに意義があります。

③米山記念奨学制度もアジア重視で、アジアの在日留学生に奨学金を支給しています。

この結果会長エレクトも名分が立つ展示なら、承諾してくれました。

ご来訪の話は、展示の届と並行して、お伺いし

たが、一旦は謝絶されました。一つの地区のご要望に応え、他の依頼もお断り願くなる。そうかと言って、総てお付き合いすることは、世界を飛び廻る多忙な立場では、不可能です、とのことでした。中野G-エレクトが、アナハイムでラタクル氏のお人柄と理念に感銘を受けて、ぜひ地区にお招きしたいという思いを抱いておられたので、なんとかご再考して頂けるものかと、ドンブワの有力者やラタクルご夫妻のご友人にご協力をお願いしました。

①2620地区は、姉妹クラブの伊豆長岡RCもあるし、特別の地区であること、

②ドンブワの会員を中心に随行団を編成し、同行します。ご夫人の友人も同行します。

③RIの運営にも、ご来訪は、良い結果を招きます。日本のRIへの貢献は、大きいですから。

④姉妹RCのシンガポール西や台北北も呼びましょう。小型のアジア交流になります。

等々と、お口添えを頼む度に、次第に話が大きくなって、ハワハラしましたが、会長も記念館を訪れて敬意を表し展示も見て、皆さんとの交流を楽しもうと言っておりました。しかし、これまでは、個人的な複数の筋からの[打診]に過ぎなかったもので、ご招待の諸条件や展示の要領など詳細に詰めて行くことになりました。

組織としてお迎えする実行委員会も編成され、内藤米山記念館理事長の統括の下、準備が促進されましたが、RI会長の行動は、総て正式な文書で日程が決定されていて、RI本部の秘書が総て管理しています。秘書のNancyさんから、伊豆長岡の温泉のあるホテルへのご招待とは如何?三島から何キロ?行事の内容は?RC会員との会合があるのか?等々Faxでのご質問を受けて驚きました。その後は、私設秘書のスベンソン夫人と緊密な連絡を取るのに加え、米山の本部の秘書の存在も、忘れないように致しました。

この度のお迎えの準備は、随材の個人と組織の力が、上手く組み合わされて、総て的確に準備され、円滑に楽しく、取り運ばれたのではないかと思います。当地のロータリーの仲間には、会えば笑顔でご苦労様でした。

1. 組織と運営

米山梅吉記念館は、財団法人(静岡県認可)ですが、財団法人、米山記念奨励会とは異なる法人です。奨励会が留学生に奨学金をおくるのに対して、館は米山梅吉翁の生誕の歩み、書籍、遺品、書簡等の展示、日本ロータリー史、米山記念奨励会一覽等を併展して、米山梅吉翁精神をロータリアンに学び、顕彰して頂くことを目的としております。館は同時に大ホールを備え、移動例会、研修の場も提供しております。

組織は

- ① 理事会、評議員会
- ② 地区(2620)館委員会とガバナー委員運営委員会で構成されております。

①は理事長、常務理事、事務局長(2名)理事及評議員は全国の各地から選出されております。運営委員会は地区内の館近隣クラブから選出された全22名で構成され、館執行部を補佐し、各事業を主管担当しております。

2. 財政

財政の基本体系は以下の通りです。

- ① 財団法人基金
- ② 第2620地区資金助成
- ③ 他地区(神奈川県2590,2780)助成
- ④ 米山記念奨励会助成
- ⑤ 賛助会費
- ⑥ 全国ロータリアン(1人年額100円奉金運動)より
- ⑦ 地区内各クラブ周年行事特別寄附
- ⑧ 館使用料
- ⑨ 来館者スマイルボックス
- ⑩ 館内売店、書籍、グッズ売上金

等が主なものです。

館入場料はいただいておりません。

以上のうち、①Xについては低金利のため殆んど0に近く、主要な財源は②③④⑤です。⑥は主として地区内会員の善意におすがりがしております。別稱、住本賛助会会長のお願いを参照下さい。

⑥につきましても、剰余の額として、又全国のロータリアンに少しでもご関心とかかわりをお願いいたたくて始めたもので、本年度で2年目になります。別掲の理事長後継を御参照下さい。

以上予算の概要ですが、新館建設以来発表は遅れているものの、予算内容は極めて質実、しかも上記の様に不特定財源、善意におすがりが多くなる要素が極めて多い現状です。

この三つは、確かなことですが、その他の効果は、これからの地区の奉仕活動に、どの様に反映されるか?によるものと思っております。

B) 地区側の効果は、

A) の場合の効果と関連を持つものもありますが、RIの会長が、初めてこの地に来訪されたことは、一つの実績になります。後は、これからの地区の奉仕活動にどう反映されるかによるでしょう。

C) 記念館としての効果は、

RI会長が来館されたことは、それだけで一つの大きな実績です。Rマーク使用の許可も含め、種々な意味で認知されたことになり、今後の運営の如何によつて、大変な効果を齎すものと思っております。

さて、伊豆長岡にとっては如何だったのか? それは、地方の一つのクラブに過ぎない当クラブに、RIの会長を、初めてお迎えすることができ、又、会長を含めて、当地で姉妹クラブの仲間と近づき、近隣クラブとの友情を深める大きな効果がありました。これも国際的な【ご縁】を長い間、大切にされて来た【先輩達のご盡力の賜物】と感謝しております。

会長のご来訪を了えて、伊豆長岡RCの知名度が上がりました。予想外の速くのRCから、【伊豆長岡のご縁もあって、会長が来られたそうだね。】と言われます。

しかし、確しかったのは、【伊豆長岡を見直したよ!】という言葉でした。それでは今まで、どう思っていたのだ、ということにもなりますが、この声も、当会の若手会員達に、或る種の誇りと自信を与え、一つの大きな効果になったと思っております。

最後になりましたが、会長と随行団ご一行のご来訪に、ご尽力下さった総ての方々にも、又、RI理事、地区ガバナー、記念館理事長をはじめご指導下さった方々に、厚く御礼を申し上げると共に、担当した仲間の方々に心から感謝し、私の縁感と致します。

と声を掛け合っています。タイからも、多数の鄭重なお礼状が届いています。昨年12月、ご来訪のお礼廻りに、パンコックを訪れた際は、良かったよ!と、みんなから御手取めに合いました。本年2月には、拝借した展示物を、パンコックの会長の事務所に返還に行きましたが、チャロイ夫人と秘書のスベンソン夫人が、わざわざ昼食会を催して下さり、鄭重なお礼の言葉を、【今回、同様でなくて、本当に残念に思っています。】と言われました。幸いにこれまでもところどころ不評を耳に聞いていません。

では、何が良かったのでしょうか?私には第一に、会長の【お人柄と笑顔】そして真摯な【お節め委】であったと思います。誰とでも笑顔で握手し、何度でも面倒がらず、一緒のカメラにポーズを取られました。普通は逃げたくありません。【オーラを感じる。】、【教祖のようだ!】とさやく人もいました。本性とも言うべき会長の間近のなのお振舞が、人々の心打ったのではないのでしょうか。

随行団の参加の効果もあつたと思っております。親睦の輪を拡げて、ユーマラスな雰囲気を出しました。仲間意識が昂まり、行事が盛り上がりました。会長にとつても、同僚が同席しているという安堵感を与えたものと思っております。

それに天候です。富士が壮麗な全景を現わして歓迎に参加しました。会長が富士を眺めている姿が、目に焼き付いています。【天の味方】と実感致しました。また、会長が、展示会に二度も足を運ばれたことも感激でした。ご来訪の記念碑の前で少年少女連に囲まれて、カメラに笑っている会長の姿に、【慈愛の種を播く姿】を見ました。

ところで、ご来訪の実質的な効果は、どうだったでしょうか?

A) 会長側の効果は、

① 会長のお人柄と理念が、この地区に、親しく、伝えられたこと。

② 会長と仲間RCの同僚達との信頼関係が、この地で、更に深められたこと。

③ この地で、小規模ながら、複数のRCの国際交流ができたこと。

3. 運営委員会の任務

R.1第2620地区の地区組織として、地区委員3名と地区ガバナーの委嘱委員として静岡第2分区13名、第3分区8名、山梨第4分区1名の22名の運営委員が選出されている。

委員会の任務は、記念館の理事長と密接な連絡を取り、記念館の円滑な運営と発展のため、協力・支援することにある。

委員は、記念館に奉命される方の接待、解説等の情報提供、その他運営委員会に設けられた部門別小委員会に属し、記念館に支援・協力することをその任務としている。

部門には次の小委員会が置かれている。

1. 企画事業委員会
2. 渉外情報委員会
3. 記録委員会
4. 展示委員会
5. 文庫委員会
6. 館報委員会

各小委員会の事業内容は、次のとおりである。

1. 企画事業委員会
 - ・記念館春季例祭の開催
 - ・記念館秋季例祭(創立記念等)の開催
 - ・講演会の開催
2. 渉外情報委員会
 - ・本館への訪問者誘致のための情報の収集・作成・発信
 - ・「米山研究会」の開催・企画
 - ・地域への対応
 - ・インターネット組織の構築
3. 記録委員会
 - ・日本ロータリー年史(昭和30年以降)の作成
 - ・記念館年間記録作成
 - ・出版に関すること
4. 展示委員会
 - ・展示コーナーの充実
 - ・企画展の開催
 - ・館内設の販売コーナーの充実
 - ・ビデオライブラリーの設置
5. 文庫委員会
 - ・米山記念館文庫の創立
 - ・館蔵書類の整備と目録作成
 - ・寄贈出版物の整理
6. 館報委員会
 - ・年2回館報の編集発行

4. 組織表

監事	評議員	理事	理事	理事長	顧問				
高橋 希昭 津 田 進	朝野北 規本 一 若小敏 伊藤 長英 水沢東 伊藤 大里 白河 富永 健男 藤 康 小林 茂 奥垣東 片柳 史夫 村上 吉田 昭平 黒谷 小林 雅二 東江北 鈴木 寛 川崎 水園 善治 七尾 前山 正一 甲府南 渡邊 守人 岐 早 岡本 茂 高野山 久利 康彰 榎 井 宮崎 茂和 大 阪 辻 本 朝男 西 島 佐々木 善哉 芦原川 田中 毅 岡山東 岡本 貴夫 高 島 土肥 浩右 別府東 西村 謙一 西 郡 岡部 鎮雄 東京芝 長谷川 重一 牛 田 松 本 弘 吉 川 藤 田 恒弘 小田原 梶 島 清夫 松戸東 石井 亮太郎 大 江 伊藤 己雄男 相台島 松田 真一 土 浦 佐藤 二郎 藤 岡 岡 場 肇博 藤 岡 清 章司	富士吉田 内藤 成雄 三 島 伊藤 文平 三 島 住本 純一郎 長 桑 河口 隆二 浜 北 乾 昇 静岡西 中村 孝太郎 甲府北 岩波 政基 静岡東 石澤 芳郎 子+新羽西 神崎 正隆 浜 江 伴山 謙之 東京町田 村野 雄三 坂 出 阿部 正昭 東 京 大澤 悠平 静岡西 玉水 直行	内藤 成雄 伊藤 文平 常務理事 伊藤 文平 常務補佐 小笠 浩平 総務・会計 杉山 浩代 庶 務 坂 川 まり	大西 第二郎 坂本 豊美 中野 哲男					
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>企画事業委員会</td> <td>地区委員会 委員長 中村 明智 副委員長 三枝 徳造 委員 鈴木 良規</td> <td>渉外情報委員会</td> <td>運営委員会 沼津 杉山 哲男 沼津北 三村 美智代 沼津東 山田 文章 沼津西 小笠 悠平 沼津南 菅本 義正 三 島 蒲田 守 三島西 鈴木 良規 三島南 鈴木 泰次 伊豆枝岡 鈴木 光信 御殿場 佐藤 孝 三島西 岡部 敬之 三島南 野田 隆典 伊豆枝岡 味田 豊 伊豆枝岡 小野 慎 御殿場 竹上 武士 三島南 土屋 正 三島南 藤岡 豪亮 長 桑 榎 井 重 長 桑 山崎 和良 那 留 富岡 正彦 那 留 津本 静一 那 留 新津 好久</td> </tr> </table>						企画事業委員会	地区委員会 委員長 中村 明智 副委員長 三枝 徳造 委員 鈴木 良規	渉外情報委員会	運営委員会 沼津 杉山 哲男 沼津北 三村 美智代 沼津東 山田 文章 沼津西 小笠 悠平 沼津南 菅本 義正 三 島 蒲田 守 三島西 鈴木 良規 三島南 鈴木 泰次 伊豆枝岡 鈴木 光信 御殿場 佐藤 孝 三島西 岡部 敬之 三島南 野田 隆典 伊豆枝岡 味田 豊 伊豆枝岡 小野 慎 御殿場 竹上 武士 三島南 土屋 正 三島南 藤岡 豪亮 長 桑 榎 井 重 長 桑 山崎 和良 那 留 富岡 正彦 那 留 津本 静一 那 留 新津 好久
企画事業委員会	地区委員会 委員長 中村 明智 副委員長 三枝 徳造 委員 鈴木 良規	渉外情報委員会	運営委員会 沼津 杉山 哲男 沼津北 三村 美智代 沼津東 山田 文章 沼津西 小笠 悠平 沼津南 菅本 義正 三 島 蒲田 守 三島西 鈴木 良規 三島南 鈴木 泰次 伊豆枝岡 鈴木 光信 御殿場 佐藤 孝 三島西 岡部 敬之 三島南 野田 隆典 伊豆枝岡 味田 豊 伊豆枝岡 小野 慎 御殿場 竹上 武士 三島南 土屋 正 三島南 藤岡 豪亮 長 桑 榎 井 重 長 桑 山崎 和良 那 留 富岡 正彦 那 留 津本 静一 那 留 新津 好久						

5. 来館者数

平成14年入館者数(1月-12月)

	RC数	RCメンバー	一般
1月	2	19	16
2月	5	197	8
3月	9	121	28
4月	16	192	34
5月	19	292	56
6月	3	34	20
7月	8	29	6
8月	13	58	29
9月	11	176	17
10月	25	163	34
11月	12	375	23
12月	5	27	66
小計	128	1,683	337
合計	128 <small>RC</small>		2,020 <small>%</small>

6. 会議及び行事

1. 会議

- ①定例理事会、評議員会(年2回)
- ②近隣理事会(年2回)
- ③地区運営委員会(年6回)

2. 例祭

春季例祭 4月28日(米山翁命日) } 多少の変更あり
 秋季例祭 9月16日(館創立記念日)

記念式典と講演会、基参、アトラクション、懇親会

3. 常設展示の保存、継続と企画展の開催

4. 特別行事(随時)

5. 書籍、出版物、ロータリーグッズの販売

6. 来館者、ホール利用者への恒常サービス

7. 賛助会員制度

米山梅吉記念館賛助会

会長 住本純八郎(理事)
 理事長 内藤成雄

2002年11月27日ビチャイRII会長が記念館を公式訪問されました。このことは米山梅吉翁がアジアの大先輩であり、ロータリーの先覚者であることを、RII会長が特に認識された上でのご決断で正に前代未聞のことでした。

これにより米山梅吉記念館は、各夷共に地区の記念館から日本の、更に世界の記念館としてアピールされたことと思いき喜ばしい限りです。これは、この度ロータリー・エンブレムの掲示も許されたことにも現れております。

しかしながら、組織が拡大し事業が増えますと必然的に費用も増加し、現在でも年間約200万円位の不足が見込まれております。

今までおおよそご賛同は頂いておりますが、具体的な目標としては、週日各クラブにお願いいたしましたとおり一人年額3000円(一口)として、口数の増加はそのご厚意に甘えることとし、クラブ会員数により賛助会員の数もお願いをしておりますが、今後も何卒このようなお願いをすすめていただきたく思いますのでよろしくお願いを申し上げます。

このことは現在2620地区内の会員にお願いしているところですが、他地区の皆さんにも輪は広がっております。又、このことは各自の自由なご意志によっているもので、決して強制するものではないことを申し添えさせていただきます。

何卒以上ご理解をいただき、館のよ運営、発展のために御協力をいただきますことをお願い申し上げます。

申し込み、振込先 賛助会振込先

静岡銀行 下土狩支店 普通 0367598
 (財)米山梅吉記念館 理事長 内藤成雄

8. 全国1人100円募金運動

(財)米山梅吉記念館

理事長 内藤成雄

本館の事業資金の一助に致したく、又、全国のロータリーアンの皆さんに米山記念館への関心とつなごうを期待して平成14年から開始した運動です。

規模が広範なのと、お1人の額が低いので随分ためらった計画でしたが、思いがけない成果で、今はおかげさまでこの計画に救われております。クラブ毎にまとめて下さるところ、地区ごとにまとめて下さるところと合わせて全国60%以上の皆さんが御協力下さいました。その額は1年で700万近くにはまりました。お陰で館も事業費の方へ予算をつけることができるようになりました。米山先生の余徳と思いたい全国のロータリーアンの善意に限りない感謝を捧げます。只今も少しづつ御送金をいただいております。

何時までも続けられることではないと思いますが、今でも御協力下さった地区及びクラブの皆さんには何卒本年も続けて御奉仕下さいませますようお願いいたします。又新しく御協力下さいませますクラブもございましたら何卒よろしくお願いをいたします。

申し込み、振込先 (100円募金) 事業資金振込先

郵便振替口座 番号 00620-4-57730
 財団法人 米山梅吉記念館

9、米山記念館に関する著書等

1、米山梅吉伝	佐々木邦著	4,000円
2、藍壺覚書	坂本豊美著	1,200円
3、米山梅吉先生語録抄	坂本豊美著	1,200円
4、藍壺先生と言う人(米山梅吉物語)	内藤成雄著	500円
5、米山梅吉物語(青少年向き)	長泉ロータリークラブ発行	500円
6、YONEYAMA(英文)	米山むつき編 Rachel Payne英訳	500円
7、拓本(いさかおもなく…)	俳句・米山梅吉	500円
8、ビデオ(梅吉の生涯)		3,000円

米山梅吉記念館のご案内

開館時間

午前10時～午後5時(但し12月～3月は
午後4時まで)

休館日

- 月曜日
- 12月28日～1月3日
- 整理のための休館日



米山梅吉記念館報

創刊号Vol.1

発行日 平成15年4月28日
 発行者 財団法人米山梅吉記念館 理事長 内藤成雄
 〒411-0941 静岡県駿東郡長泉町上土狩346-1
 TEL(055)986-2946 FAX(055)989-5101
 印刷 フタバ印刷株式会社